

○議長（前原英石君） 5番 森 弘秋君。

○5番（森 弘秋君） 私からは、これから舟橋村を村長はどのように導くのかと通告しておりました。

先日発表がありました今年の漢字は「戦」でした。まさに何か我が村にぴったりの感じがします。

パワハラ問題から始まった序章「舟橋劇場」は一応終止符を打った感じがあります。第1回目の村長不信任案可決。村議会の解散。村議会の解散からは、私にはちょっと軌道が外れたかなという感じがしております。そして、議員の選挙。第2回の村長不信任可決。村長失職。村長選挙。ようやく終止符を打った感じであります。

しかし、一度どん底まで落ち込んだ舟橋村であります。さて、これからどうするか。この落ち込んだ日本一面積の小さな舟橋村をどう立て直すのか。

渡辺村長は「光りかがやく未来をえがく ふなはし新時代！」と銘打って公約を掲げられました。私は、新時代の幕明けであると称し、発想の転換で、可能性のある、村長は若いかどうか分かりませんが、若き村長に期待するわけであります。どのように輝かれるのか、まだまだ未知数であります。

私も以前から言っていました、世代間、地区間、出生地間の融和が大事である。これからが問題であります。この舟橋村の悪いイメージをどのようにして、どうして舟橋村を立て直すのか。どのように再生されるのか。

私は、過去に新・旧の人、「元村」の人との住民の隔たりが大きいことから、まずここから解消しなければならないと行政側に言ってきましたが、何の工夫もされなかったような気がします。

例えば、南北にある公園を利用したイベントの開催、老若男女が相集い楽しく遊べる催事など、世代間を超えた祭り事の実施等々、村長は、今、世代間、地区間、出生地間の融和が大事であると言っておられます。まさにそのとおりであります。

再度申し上げます。村長は「光りかがやく未来をえがく ふなはし新時代！」と銘打ち、公約として、今ほど竹島議員もありましたが、4つの目標、「未来へと持続する村づくり」、2つ目、「子育てしたくなる村づくり」、3つ目、「高齢者にも安心な村づくり」、4つ目、「公平で透明な役場づくり」を掲げておられます。少々厳しいことを言いますが、お題目なら誰でもつくれる。お題目倒れにならないようにしていただきたい。

ただ、一度でできない。工程を立て、順次に目標に近づいてください。また、提案理由説明で言うておられるように、多くの時間を要することになると思います。言われるとおりです。昔から、ローマは一日に成らずであります。

私は、新時代の幕明けである。発想の転換で、可能性のある若き村長に期待をするが、どのように輝くのか、村長の方針、方向を伺います。

次に、特に村長が掲げた公約の中で、4つ目、「公平で透明な役場づくり」。その中で組織の姿勢を掲げておられますが、この公平で透明な役場づくりとは、具体的に何をするのか。

ただ、村長一人では何もできない。優秀なスタッフが必要であります。「公平で透明な役場づくり」とは、具体的に何をするのか。

某市で幼児虐待の事件がありました。その市長は、市長私をはじめ管理監督者にも責任があると言って謝罪しておられました。当然です。

舟橋村のパワハラ問題も、村長、副村長もさることながら、時の管理者にも重大な落ち度があったと考えられます。連帯責任であります。私に言わせれば、「管理職にあって、管理者にあらず」です。見て見ぬふりをしていただけなのか。何をしていたんでしょう。自分たちの仕事として早いうちから関心を持ち、手を打つべきであったでしょう、こんな重大事故になる前に。

村長、あなたはどうしますか。終わった事件としないで、今後の未然防止を考えてください。

民間であったら、どのような手を打ったのでしょうか。村長は、民間の活力を導入する云々と言っていますけどね。

渡辺村長は、民間経営感覚のコスト管理意識、県、他町村との人材交流、連携強化等を言うておられるが、期待しております。パワハラ問題・事件が二度と起こらないためにどうしますか。

管理監督者研修の実施も言うておられます。大いに賛成です。ただ、監督者研修を受講した管理者は、勉強になりました。当然ですが、だけでは済まされない。次に何をしなければならぬかを考え、組織に生かさねばなりません。厳しいことを言いますが、役場内しか知らない。もっと外に目を向けて、外からの知恵、そういったものを引っ張ってくるべきです。

少々余談になりますが、私が、故金森村長でしたね、副村長を市、県から出向しても

らえばどうかと言ったら、何と答えたと思います、時の村長は。外部人事は要らない。外部人事を引っ張ってきたら、内輪がうまくいかない。引っ張る気がないと。こんなことを言っているから、パワハラ事件が起きるんですよ。井の中の蛙大海を知らず。頑として受け入れてくれなかったですね、故金森村長はそれから。

前村長の古越氏にも数回話しました。だけでも彼は、打てども響かず、のれんに腕押しの状態でした。

考えて見れば、故金森村長が、時の副村長、古越さんですね、要らんと。こう言った人が村長になったんですから、当然かもしれません。若きバイタリティーのある村長に期待します。

終わります。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 5番森議員のご質問にお答えさせていただきます。

まずは、叱咤激励を含むご質問、ありがとうございました。

事前にいただいております質問の要旨に沿ってのお答えとなりますことを、まずはご了承ください。

まずは、どん底まで落ちた舟橋村をどのように再生、立て直すか、村長の方針はいかにということですが、ご指摘のとおり、今般のこの舟橋村行政、ひいては舟橋村に対しての認識は、内外ともに決して喜ばしい評価ではないという認識でございます。

この状況に対し、私自身、選挙期間においては、「再生」では、この舟橋村を立て直す、そういったことはかなわないと判断しておりました。したがって、私自身は「創生」という言葉を用いて、住民の皆様へこの舟橋村の立て直しを訴えておりました。

「再生」と「創生」は一見似た言葉であるかのように見受けられますが、「再生」につきましては、元の状態へと戻す、そういった意味合いが強いものと考えております。元の状態に戻すということは、ご承知のとおり、不正や隠ぺいがまかり通る状態になると考えております。「創生」という言葉は、もちろん新たなものをつくり上げるという意味ではございますが、私自身においては、過去の慣習・慣例にとらわれないという意味とも捉えております。

すなわち、この舟橋村の立て直しにおいては、例外なく挑戦的に進めるという気概で取り組む覚悟でございます。聖域なき改革を、役場組織内、人事や制度、様々な仕組みにおいて推し進めていく所存でございます。

同時に、自身が村内の住宅を一軒一軒訪問させていただいた際には、多くの苦言や意見も実際として伝えられております。これは間違いのない、住民の皆様からの声でございますので、真摯に伝えていくことに注力してまいりたいと思っております。

また、「公平で透明な役場づくり」に関しましてではありますが、「公平」に関しましては、役場外に対しては、一部の住民にとっての役場組織となることのないように、そして一部の方の利益誘導となることのない、そういった組織運営に努めてまいりたい旨、表しております。

一方、役場内部に目を向けて考えると、一部の方の価値観や自己顕示欲で評価される人事評価ではなく、この舟橋村行政、舟橋村のために尽力される職員さんが評価される状態を公平と捉えております。そのために、先般よりお伝えしておりました、私自身が公平な目線で職員の皆様を評価できるよう、村長室、村長席を適切な場所に移動させることを検討していきたいと考えております。

あわせて、「透明な役場づくり」につきましましては、言葉どおりの、役場の情報が一目で分かる状況を整えていく、そういったことを示しております。この情報の開示がなされない限り、申し上げましたとおり、一部の住民の方のための役場組織からの脱却はかなわないと、そのように考えております。

今後より一層の情報の開示が必要と認識しておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたしまして、答弁とさせていただきます。